

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちえりいくらぶ		
○保護者評価実施期間	令和6年8月20日		～ 令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日		～ 令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアを必要とする児童の受け入れを除き、障害特性を問わず幅広い受け入れ及び支援対応を続けている。	実務経験が長い支援者が高い比率を占めていることもあり、支援に係る情報共有や意思疎通が円滑に行えることが多い。上記をもとに、利用時の障害特性や日々の状況に合わせた活動の区分け及び調整を行っている。	中期・長期を見据え、人材の確保及び育成については計画的に行い、支援者がより働きやすい環境を作っていくことも進めていく必要がある。
2	10年以上の運営実績があり、自立生活に向けた支援及びプログラムを提供し続けている。	企業からの雇用ニーズと障害特性を踏まえた職場環境を勘案した職場体験の機会や、基本的な認知力の強化に向けたプログラムを提供している。	社会の実状に合わせた支援を持続的に行う為にも、上記と同様に人材確保と育成が重要視される。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民の方々との交流の機会を設定できていない。	日々の支援の実施を重視し、積極的に企画する姿勢がなかった。	インクルージョンの観点や有事の際に備えて地域交流に積極的に取り組む意識を持ち、実情とニーズに沿った企画を行っていくこととする。
2	保護者間の交流の機会や家族支援プログラム等、ご家族に参加していただく企画が実現できていない。	保護者各位の参加できる時間に合わせた企画や、潜在ニーズを見据えた上での積極的な取り組みを行っていない。	運営規定の内容の変更や人員体制の見直しなど根本的な変更が必須とされる。
3	支援従事者及び職員一同が関係法令や支援スキル等を高めていく研修への参加、あるいは参加できない支援者への補整の為の研修が必要とされている。	非常勤の職員の方々においては、働くことができる時間に個人差があり、一堂に集まる機会に必ず参加いただくことが困難な場合がある。	年間計画においての研修には参加していただくよう周知を行うとともに、理解しやすい資料の作成に努めていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ちえりいくらぶ					公表日	年月日	令和6年10月17日	
							利用児童数	18人	回収数	6
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1		1	移転（令和5年8月）後の施設内の様子を直接見たことがない。	事業所内の環境や活動内容等についての情報発信のご案内の在り方を見直し、各保護者様のご予定を踏まえた上でお気軽に様子をご覧いただく機会を設定していく。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3	2		1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3			3				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	4			2				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6							
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6							
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4	1		1	言葉や会話が増え、意思疎通が円滑になってきている。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5	1			長期休暇等の学校休業日に外療育による運動の機会を提供してもらいたい。（実施回数が不十分）	実施可能なスケジュールを見直し、職員の役割分担と連携について見直していく。		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6				英語学習・プログラミング学習・クッキングをお楽しみにしている。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。			2	4				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6							
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6							
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2		2	2				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	4	4						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5			1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6							
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	1	1	3	1		再度ニーズを確認しながら企画及び実施を検討していく。		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	1						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	1		2	起きていないので分からない。	事故対応マニュアル等について、周知や公表の在り方を見直していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ちえりいくらぶ		公表日		令和6年 10月17日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2	基準値を上回るスペースが確保されている。	聴覚過敏の利用児にとっては、防音設備が不十分である場合もあるが、完全に遮断することが構造上できない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	実務経験が長い支援者（5年以上）が7割を占め、日々基準を上回る配置となっている。	今後を見据え、中期・長期に向けての人材確保及び育成についての計画を見直していく必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	2		静養室の使用目的について見直し、十分な周知を行っていく必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		1フロアの構造ではあるが、活動内容やカリキュラムによって、スペースを区別している。清掃は日々実施及び点検を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			ニーズに対し十分にお答えできていない場合もあるので、より事前に順番等を整備し納得が得られるようお示ししていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		従事者一同が集まる機会の頻度を高めていくことが求められており、改善を行う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2		情報共有の精度を高めていく為にも、より効果的な支援会議等を行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		日々、ミーティングの時間を設定しており、職員用連絡ノートや連絡ツールの確認及び方向内容の記入を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		第三者評価機関を設定できていないので、法人内で検討していくこととなる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			直接、研修に参加できていない従事者がいる。知見や知識の差がある状況を補整する為の研修を増やしていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		月間のプログラム予定表をホームページに掲載し、紙面を配布している。	今後、定められた要綱において作成し、提出する予定となっている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		ガイドラインに定められた通り、アセスメントを踏まえた個別支援計画原案をもとに支援会議を開き、作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		原案をもとに議論し、モニタリングや各支援者の所見を踏まえ、障害児相談支援の計画に沿った内容となるよう努めている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1	障害特性だけではなく、生活環境や成育歴を踏まえた上で、丁寧なアセスメントを行うこととしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		各支援者の強みを活かし、各プログラムの柱や役割分担を協働で行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	2		支援開始前のミーティングに参加しづらい支援者もいる為、出勤時間の調整が可能であれば行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	6		支援開始前に比べ、支援者一同がより集まりにくい状況である為、翌日の開始前に共有を行う以外難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	3		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	11			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		SSTや認知機能強化トレーニング等のカリキュラムや個別支援の中で行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		担当者会議には、児童発達支援管理責任者が出席することが主となっており、事前事後に情報の共有を欠かさず行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			医療ケアを必要とする児童の受け入れがないこともあり、医療機関との連携の頻度が低い。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	3		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	6		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		自立支援協議会を運営する法人からの研修案内等には可能な限りお応えし参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6		家族が参加できる研修の企画及び実施は一切できていない。サービス提供日を減らす前提でなければ実現できない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	1		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1		十分に潜在的ニーズを把握できていない事例もある為、事業所全体が支援力と意識を向上させて行く必要がある。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6		お集まりいただき、保護者様同士が綱領交流していただけるような機会は一切企画及び提供ができていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		個人情報の取り扱いに関しての規定を定めている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7		機会の企画及び実施は一切できていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2		各御家庭に十分にご理解いただくまでの周知ができていない為、面談時やホームページへの掲載について見直していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	3		安全計画についても周知が不十分である為、しっかりとご理解いただけるよう情報の公表を行い、随時更新していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		法人内で設置された虐待防止委員会により、虐待防止研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	1		身体拘束を行う必要があるかどうかの認識を再確認し、職員一同適切な理解がなされるよう研修を実施していく。	